

第13回学術集会 開催のご報告 (巻頭言)

第13回学術集会 大会長
リハシップあい
川本 愛一郎

テーマ『地域におけるその人らしい居場所づくりを目指す実践作業療法』
副題 ～その人らしい居場所とは何か？具体的に考え具体的に行動しよう！～

陽春の3月1日(土)2日(日)の二日間に渡って、鹿児島市県民交流センターを会場に、全国地域作業療法研究大会 第13回学術集会が開催されました。

全国から会員88名、非会員34名、学生75名の計197名の参加がありました。約1年間の大会準備期間でしたが、大会企画運営委員、当日の大会運営スタッフの献身的な尽力により盛会の内に研究大会を終えることができました。

今大会では、特別講演にテレビドラマや漫画のDrコトーで有名な下甕島手打ち診療所所長の瀬戸上健二郎先生をお招きしました。瀬戸上先生の甕島での、孤軍奮闘の情熱あふれる医師魂に深い感銘を受けました。瀬戸上先生に特別講演の依頼をするために昨年5月に甕島に渡りましたが、まさに絶海の孤島の印象を受けました。青い海と島の人々の深い情を垣間見た気がしました。講演で印象に残ったのは、廃用症候群(生活不活発病)は急性疾患であるというご指摘でした。地域リハビリテーションに身をおいて、痛切に感じたのは、予備力の乏しい高齢者の生活力を維持する上で、肺炎や転倒などで入院した場合、病気は治ったけど生活力はかなり落ちた状態で退院され、また生活の構築を一からやり直しということが多いという現実でした。入院等による廃用症候群に対する地域の医療機関と地域リハに携わる私達との密な連携の必要性を実感しています。



また、大会テーマに沿って4つのセッションを準備しました。各セッションとも熱い想いをもち具体的な実践活動をされている講師・シンポジストの先生方であり、元気をもらえる活動の紹介と活発な意見交換がなされました。

一般演題は、10演題の発表があり大会参加者と活発な質疑応答がなされました。懇親会は、100名以上の参加を得て大変盛り上がることができました。特別委員会を組織して準備し予算に四苦八苦しながらも、鹿児島らしさを出すことができました。

また、大会に関するアンケートを実施し真摯で貴重なご意見を多数いただきました。紙面をお借りして厚く御礼を申し上げます。アンケート結果は、日本地域作業療法研究会ホームページ等で報告したいと思います。

最後に、研究大会を支えていただいた会員、講師、参加者、理事、大会運営スタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

全国地域作業療法研究大会 第13回学術集会（鹿児島）

アンケート集計結果報告

第13回全国地域作業療法研究大会

事務局長 濱田桂太郎

I. あなたの所属について該当する箇所に○を付けてください。

1. 病院	14名
2. 老人保健施設	2名
3. 通所リハ	5名
4. 通所介護	0名
5. 訪問看護ステーション	1名
6. 学生	20名
7. その他	45名（学校 2名、自宅1名）

II. あなたの経験年数について該当する箇所に○を付けてください。

1. 1～5年	9名
2. 6～10年	8名
3. 11年以上	8名
4. その他	20名

III. あなたの職種について該当する箇所に○を付けてください。

1. OT	23名
2. PT	2名
3. ST	0名
4. 看護婦	0名
5. ケアマネージャー	0名
6. その他	OTS 20名

IV. セッション1「地域リハとはなんだろう？」について、該当する箇所に○を付けてください。また、長所（よかったところ）短所（悪かったところ）についてお答えください。

1. 良い	23名
2. やや良い	14名
3. ふつう	4名
4. やや悪い	0名
5. 悪い	0名

*無回答 4名

【長所】

- ・実際に現場の第一線の先生のお話は心にしみました。
- ・各々の先生方が頑張られている環境や考え方を知ることができました。
- ・佐藤先生からの地域に関する問題提起が大変よかった。
- ・地域で関わっている先生と病院を含めて地域とする見方とそれぞれの見解で話が聞け、これ



までの地域リハの歴史や今後の可能性等も知ることができた。

・発表中の人の出入りが多すぎるのではと思いました。事務局の方で何らかの対応を行ってほしいと思いました。

・談話室の検討もお願いします。

・学生にもわかりやすかった。

・現在まだ作業療法士について、また地域リハについて学んでいる途中ですが、リハビリテーションとは、作業療法とはということについてもう一度考え直す機会となりました。

「寝たきりになりたい人はいない」あたり前のことですが、この言葉を胸に勉強や実習に取り組んでいきたいです。

・地域リハ、訪問リハなどの関係性がよくわかった。

・地域リハについての役割がみえて、とてもよかった。OT としての関わりあり方が私の中で少し見えた。

・地域リハについて知識が浅い私でも理解することができた。

・一人一人の意見が違うところやかさなっているところがあっていろんな捉え方があった。

・地域リハの流れが具体的な事例を通して発表してもらいわかりやすく勉強になった。

・病院や在宅での訓練だけでなく、外へ出てみることも、その人らしさを見つけることができ、大切なことだということがわかった。

・地域リハについては、学校でも学習しているが、学校では学ぶことができない深く入ったところまで知ることができた。

・様々な先生のお考えが聞けて、自分の考えの幅を広げるのに参考、勉強になった。

・企業の起業動機について聞いたこと。維持期、回復期といった考えはもういない。

・現場における意見が聞いたので、学生としては良いと思いました。

・地域リハビリの難しさや大切さを、現役の OTR の言葉から聞くことができた。

・吉田先生のストレートでパワフルな確信にせまる内容に気づかされる内容が多く、勉強になった。

・再確認、できた。また他の先生方のご意見も聞けて参考になった。

・地域に根付いたリハビリ、生活をしていかないと感じた。

・演者の話の内容がよくわかり、伝わってきた。佐藤先生の「回復期も含めた急性期～維持期もりっぱな地域リハである」という話にはとても共感がもてた。

・OT が熱かった。自分が提供している OT 振り返る必要があるなぁと思った。

・地域における、その人を支えていくという事を考えさせられました。

・吉田先生の訪問リハまでの歴史についてのお話がよかったです。今の訪問リハがあるのは今までの積み重ねの上にあること。私たちも知っておかなければならない事がたくさんありました。

・急性期～維持期関係なく、地域に関わるリハとして参加したスタッフの意識改善ができたのではないかと思います。

・自分のアプローチを振り返る良い機会になった。

・通所・訪問系についての話が聞いたので良かったです。

・色々な面から地域リハについての話が聞けてよかった。

・地域リハについて知らないことばかりだったが、学会で地域リハのことを学べて良かった。

・地域リハについて知識があまりなく最初は難しかったけど前より少しは地域リハについての知識を身につけることができたと思います。

【短所】

- ・地域作業療法の地域という定義が難しい。その地域における医療・介護・福祉という捉え方をしないと介護＝維持期＝地域と思われがちである。(精神科を含め)
- ・抽象的な表現は理解が難しい部分もあった。
- ・時間配分をきちんとしたほうがよい。
- ・個人の意見として、一人一人「地域リハ」の捉え方が違うため結果として「地域リハ」とはこういったものなのか統一した答えがよくわからない・・・と思った。
- ・地域差があると感じた。
- ・内容が難しくて少しわかりにくいところがあった。
- ・時間がもう少しあって聞きたいと感じた。

疑問：在宅介護の圏内が60kmと限定されていた理由をお聞きしたかった。

- ・起業についてもう少しゆっくり話を聞きたかった。
- ・時間が短く、質問の時間も十分とれていなかった。
- ・根拠的要素が少なかったのでは・・・と思います。
- ・それぞれの先生方の話をもっとゆっくり聞きたかった。
- ・様々な分野について聞くことはできたのですが、統一性は高くなく感じ、まとめのところが自分にとっては理解が難しかったです。
- ・時間がもう少し長ければなと思った。
- ・理解しにくい部分があった。

課題：地域に関わるリハとしての意識をもっと全体の医療スタッフに投げかけていかなければならないと感じた。

V. セッション2「その人らしさとは何だろう？」について、該当する箇所に○を付けてください。また、長所（よかったところ）短所（悪かったところ）についてお答えください。

1. 良い	32名
2. やや良い	7名
3. 普通	1名
4. やや悪い	0名
5. 悪い	0名



【長所】

- ・それぞれとても印象深い話ばかりでした。このセッションを聞いてみて、その人らしさについて自分でも考えさせられました。
- ・「その人らしさ」について、先生方の意見聞くことができおもしろかった。
- ・個性が出ていて面白かった。実際に障害をもった方の話が聞いてよかった。
- ・OTの深さ、重要性を改めて感じました。また私自身の“自分らしさ”についても、もう一度考えるきっかけとなりました。
- ・自分らしさは、共有体験を通して知るということに、ハッとした思いでした。
- ・セッションということで、参加者も自分の考えをみつめ直す良い機会だったと思います。
- ・とてもおもしろいセッションで、時間がすぐに経ってしまいました。「その人らしさ」自分たちが全てを知ったようにならないことは印象に残りました。自分の生き方も考えないといけないと思いました。
- ・その人らしさ、自分の中にその人らしさとは何だろうとつねに考えていましたが、そのき

かけになりました。

- ・考えさせられた。葉山さんの話が聞けてとても良かった。
- ・当事者の話や講演から“その人らしさ”を考えるキーワードを学べたと思います。らしさは、偏していくもの、確定しないもので、私たちも関わりを持ちながら、変化していくことに気づいていきたいと感じました。
- ・「作業の持つ力」について改めて考えさせられ、「身体を触れずにして、その人の心や体を動かす（行動）ことがOTらしさ」という言葉が印象的でした。
- ・藤原先生の話は、いつも熱いですね。情熱とそれを具体化するための関わり方がよくわかりました。古山先生の話も具体的なケースを通じての自己実現の過程についてとても参考になりました。
- ・「その人らしさ」についてより深く考えていかななくてはと感じさせられました。また、自分らしさもだしたいと思いました。
- ・自分と同じ考えの先生のお話がうかがえて安心した。（藤原先生）
- ・それぞれの先生の話、特徴的で良かった。反省させられる点が多く勉強になった。
- ・聞いていてとても元気がでました。
- ・パワーをもらえました。作業療法士をもっとやりたいと思いました。
- ・作業療法士の視点と対象者の視点を理解する事ができ、その人らしさについてはわかりやすく説明していただき、自分の間違いに気づけた。
- ・ホワイトボードを使用したものはわかりやすかった。
- ・違った考え方を教えて頂いた。「発表の状況によってその人らしさは変わる」「側面を見ただけでわかったきになっている」
- ・利用者（体験者）からのお話が聞けて、利用者側の立場の考えも聞けてよかった。その人らしさという概念について考える時間となった。
- ・体験談や学生にもわかるように少しくだいた感じの話でわかりやすかった。
- ・ボードを使っただけの説明や体験したことの話を聞いて楽しくわかりやすかった。もっと体験談を聞きたいと思いました。
- ・その人らしさを知ることが大切で治療に役立つということがわかった。自分自身のこともかんがえることができた。
- ・対象者側からの作業療法とは何か。その人らしさとは何かというものを聞くことができ、興味深い話でとてもよかったです。
- ・実際に、リハビリを受けた人の話が聞けてよかった。
- ・「その人らしさとは」ということを学ぶことができた。その人らしさを支援するためにOTの存在がどう大きく関わってくるのか大切さを理解することができた。
- ・それぞれの先生の価値観がみえてとてもよかったと思う。
- ・とても印象に残る楽しい話だった。
- ・病気になってしまうと意欲が低下してしまったり、何もやる気がでなくなるというイメージが強かったので今回3名の先生方のお話を聞いて、先が見えるからこそいろいろなことに感じやすくなったり、感動したりすることを聞いて驚きました。実際に体験したからこそ感じたことを感じたまま話していただいて勉強になることが多かった。
- ・わかりやすい説明だった。
- ・それぞれの先生方の慎に考える事が直接聞けて参考になりました。楽しい時間でした。
- ・3者とも、それぞれの個性もあり、改めて作業という我々の業の核となるものの大切さを感じることができました。
- ・熱い話でした。花がきれい、空気が気持ちいい、病気になって気づく。とても共感でした。

一緒に共感することの大切さを改めて感じました。

- ・講師が適切。当事者の意見。

【短所】

- ・その人らしさについて初めの部分よく分からないところがありました。
- ・時間がもう少し長ければと思った。
- ・もっとたくさん話がきけると良かったです。
- ・プロジェクターの字が小さく見えにくい場面があった。
- ・パワーポイントが一部、光の影響でわかりづらい場面があった。
- ・後半のセッションになってくると、休憩は1時間に5～10分程度とったほうがよいと思う。
- ・スライドを使ってほしかった。
- ・先生方の価値観がみえたが、結論的な部分はわからなかった。
- ・時間配分が残念だった。

VI. セッション3「居場所とは何だろう？」について、該当する箇所に○を付けてください。

また、また、長所（よかったところ）短所（悪かったところ）についてお答えください。

1. 良い	18名
2. やや良い	5名
3. 普通	7名
4. やや悪い	0名
5. 悪い	0名

*無回答 15名



【長所】

- ・このセッションでは、自分の居場所についてさまざまな考え方があるのだなと思いました。
- ・「居場所とはなんだろう？」と考えたことがなかったので、考える良いきっかけとなった。すごく面白かった。
- ・あまり考えたことのないことだったので、この機会に考える事ができてよかった。
- ・先生方も言われたように普段無意識に見逃しているところをもっと考えていく必要があると感じ、良い機会になりました。
- ・「地域」の名によく合致したセッションだったと思う。
- ・スタッフが対象者をせかしているのにスタッフが気づいていないことが多いというのは、新鮮な考えでした。
- ・個々の業務の中で、1人1人をみつめ直すことも大変だが、その人の大切なものをみつけ出す作業は、1番重要で、1番探さなければならないものだを改めて感じました。
- ・今までなんとなく「居場所」という言葉を使っていましたが、今回の話を聞いて、改めて考える機会をいただきました。その人それぞれに違う居場所があるということ、またそれを認めることが大切だと思いました。
- ・その人の居場所、空間、人とのつながり、時間、物、いろいろな要素があり、それらの関係性で居心地の良い場になったり、ならなかったりと考えさせられました。
- ・他の職種の話を聞くことで、視野が広がった気がします。
- ・自分自身の居場所を考えながら聞けました。臨床でも、このテーマで対象者と共有できるようにしていきたいです。

- ・認知症の方に対する環境づくりが当事者のためではなく、スタッフが見守りやすく業務をしやすいものになってしまっている。偏っているということに考えさせられた。個人の価値観の重なりを自分から歩み寄り、その人を理解しようとする姿勢の大切さを感じた。
- ・居場所について、様々な視点から考えるきっかけとなった。
- ・スタッフがよかれと思ってやっていることが、当事者に不安や混乱を生みだしているというところをOT以外の講師の先生方から教えて頂けてよかった。
- ・共感できました。特に認知症の方への対応についての発表、よかったです。
- ・いろいろと考えさせられる内容でした。
- ・OTの分野以外の方の違う視点での気づき、考えを聞けてよかったです。
- ・車椅子にただ座らせているのではなくて、移動手段として座ったり、一人一人で車椅子の種類を変えていくことも必要だということがわかった。
- ・実際に現場で働いている作業療法士の視点での講演で勉強になった。
- ・わかりやすかった。
- ・自分たちの作り上げてしまった「居場所」について、考え直さなくてはいけないなあと思える、セッションでした。
- ・自分が働いている病院に居られる対象者にとって、その病院とはどんな場所になっているだろう・・・と考えながら聞くことができました。

【短所】

- ・内容が少し難しく説明されている部分があり、どのようにとらえればよいのか多少わかりにくい部分がありました。
- ・言葉が難しかった。
- ・非常に興味深いテーマですが、広いので難しいなあと思いました。
- ・当事者にとっての居場所は1つではないと思う。そう考えたときの状況、環境が限定された時の居場所についてもっと考える必要があると思う。
- ・初めて「居場所」という内容がいまいちピンとこなかったが、だんだんとわかってきたような・・・。消化不良な感じでした。
- ・話が難しく、理解できないところがあった。

Ⅶ. 特別企画「情動写真展」について、該当する箇所に○を付けてください。

また、また、長所（よかったところ）短所（悪かったところ）についてお答えください。

1. 良い	24名
2. やや良い	3名
3. 普通	0名
4. やや悪い	0名
5. 悪い	0名



【長所】

- ・患者様の作業に対して、情が動いた瞬間をどの作品もとらえられており、将来、このような

取り組みができたらいいなぁと思いました。

・対象者一人一人の表情がすごく写真にあふれていて、その時の感情や気持ちが伝わってきた。すごくいい企画だったので、これからも続けてほしいと思う。

・たくさんの笑顔が見れてよかった。心が温かくなった。
・スライドで上映では、涙が出そうな位素敵な表情・エピソードの数々でした。ありがとうございました。

「その人らしさ」にふさわしい企画だったと思います。また張りつめた学会の企画の中でリラックスできる。口述・ディスカッションの内容を身近に感じることができる。

・スライド含め、とても感動しました。とてもOTらしい企画だと思います。今後も継続してよりよいものにできたらと思います。はじめての企画で、色々大変だったと思いますが、お疲れ様でした。ありがとうございました。

・様々なOTが現場で、どのような場面で感動しているのかが良くわかりました。1つ1つじっくり見ることができ、OTのおもしろさを再発見できました。ぜひ次回もおもしろい企画、楽しみにしています。

・色々な場面をみられて良かった。
・心が癒された。
・とても良い企画だと思います。各人が、自分のペースで生活しているのがありありと伝わり、感動しました。

・実際の取り組みの中での生の表情であるため、とても興味深くみとれた。
・こういった表情—Artは、対象者を元気づけ、私たちに勇気づけるのではないかと思います。
・自然と笑顔と元気が湧いてきました。
・あらためて、作業的存在としての人について考えさせられた。
・スライドと音楽で涙が出ました。ぜひ来年も実施し、公募して下さい。私も参加したいです。
・とても良かったです。来年もぜひ行ってほしいです。
・年齢を重ねるということは美しいと思いました。泣きそうになった。
・写真だけでなく、補足説明があったのが良かった。
・現状がわかる。
・表情豊かな写真ばかりで、その人の性格などがみえるようだった。
・このような笑顔が見れるよう、これからもがんばろうと思いました。
・各々の施設での関わり素晴らしい笑顔がのぞけて良かったです。全員がベストショットです。スライド上映、涙が出ました。

【短所】

・作品の数がもう少し多くてもよかったかなと思いました。
・もう少しゆっくりスライドを見せてほしかった。特に音楽・文・写真から与えられるメッセージ（情動）にひたる時間をもう少しほしかった。
・もっと枚数を多くしても良いと思う。
・このような写真をたくさんしてほしい。

第 13 回全国地域作業療法研究大会学術集会に参加して

熊本機能病院
吉山 周作

平成 20 年 3 月 1 日と 2 日の二日間鹿児島で開催された第 13 回全国地域作業療法研究大会に参加する機会を得たので、大会の流れや感想など簡単ではあるが報告する。今回の学術集会のテーマは「地域におけるその人らしい居場所づくりを目指す実践作業療法」であった。二日間にわたり、様々な地域でご活躍されておられる経験豊富な先生方の講演があり、通所リハビリで働いている私にとっては大変興味深い学術集会であった。

一日目のセッション1では「地域リハとは何だろうか?」というテーマで、セッション2では「その人らしさとは何だろうか?」というテーマで、基調講演とシンポジウムがあった。「人間らしさ」の先にある「その人らしさ」とは?一人一人違う個人史というのはどのような糸口から理解することができるのか?その人らしく生きるとは?その人にとっての意味のある作業とは?その人が意味のある作業に出会うことでどのような変化が起こるのか?意味のある作業に出会うにはどのようなきっかけ作りの技術が必要なのか?色々な先生方の話を聞きながら様々な疑問が浮かんだ。現在私が現場で実践していることと重ね合わせながら考えることができた。

二日目の特別講演は、「Dr.コトーの離島診療所日記」というテーマで、瀬戸上健二郎先生から離島で実践されておられる医療の講演を聞くことができた。セッション3では「居場所とは何だろうか?」というテーマで、基調講演とシンポジウムがあった。活動や参加に制限のある人が自分の望む暮らしを、その住む地域で実現するためには、「居場所」というキーワードはその方を支援する上で大変重要になってくると考えられた。今回の学術集会に参加させて頂き、作業療法というのは、その方の身体・心身機能状態を考慮し、その方と共にその方にとって意味のある作業を考え、意味のある作業を導入する。その結果、作業を通じて自分を表現できるようになったり、その作業がその人にふさわしい役割になったり、作業がその人らしく生きる手段となり、最終的には作業効果が本当の意味でのその方の自律に繋がっていくのではないかと思った。作業の奥深さに触れることができた学術集会ではなかっただろうか。

鹿児島で学んだ種を今後に活かして、臨床現場でその種を花を咲かせていきたいと思う。最後にこのような学術集会の場を企画して頂いた大会長の川本先生をはじめ運営委員の方々に深く感謝致します。



日時 : 平成 19 年 6 月 21 日 (木) 19:30~21:30
場所 : 薩摩「炭」とりいち与次郎店 (鹿児島県鹿児島市)
出席者 : 古川、近藤、陣内、座小田、吉田、佐藤、川本、比留間、高木、松田、濱田、
上城、神川。(記録:立花・松岡)

【議事】

1) 平成 18 年度事業報告ならびに決算報告

(1) 第 12 回学術集会報告

佐藤: 皆様の協力もあり、無事に収入が支出を上回った。

今後は、九州全体でネットワークを作り、西から全国へ発信していきたい。

また、地域リハを支える地域作業療法という、地域作業療法の上に地域リハビリテーションというキャッチフレーズをつけたほうがよいのではないかと思う。

比留間: 作業療法は知名度が低いので、良い案かもしれない。

承認

(2) 調査・研究の件

高木: 昨年度の理事会、総会で報告したとおり冊子を作成する。現在 SF-36 等のツールを作成して事例を集積しているところである。

古川: 本年度で終了するというのか。

高木: その予定である。継続的に行なうと思うが一区切りつくのではないか。

古川: 長すぎるのはよくない。区切りをつけるべき。

承認

(3) ニュース発行の件

高木: 昨年度はニュースを 1 回発行した。

比留間: 若い人たちが情報発信するのはどうか? このようなことが役に立ったなど、地域における活躍を報告してもらっては

古川: ホームページとリンクするかもしれない。ブログ的にやるか否か。

高木: 継続検討する。

(4) 決算報告と監事意見書

陣内: 決算の合計額は、3,565,324 円で、会員が約 450 名、毎年 50 名増加しているが会費の回収ができていない。学術集会の収支がほぼ同じなので、若干食いつぶしている状況である。

監事意見書は、6 月 1 日、6 月 6 日に中島、木村監事より適正であるという意見を頂いた。

古川: 補填するような事業を検討するべきか?

陣内: 検討する。今年度はまず未収入の会費を集めるよう努力する。

(5) その他

吉田: 医療と介護保険において維持期が取り上げられており、医療が縮小し維持期が拡大している。今が地域作業療法として発展していく時期ではないか。H.P のこともあるがもっと広げ、呼び込みをする時期だと思う。国はこちらをみている。会員を増やすべきだ。方法として、広報手段を検討し地域とはこういう分野なのだと明確にし、広報する必要がある。今の時代は新卒者もこの分野に入っていかなざるを得ない。より対象を広げた研修会を開催すべき。

古川: 維持期というときらめの感があるが、リハビリテーションはそこだと思う。

吉田: 新卒者が地域に入らざるを得ない背景がある。その人たちに寂しい思いをさせないように。H.P を開設すれば研究会の歴史、情報がある。以前より地域作業療法があり、あなたの分野は以前から勉強会をしていると伝えること。後は中身。

2) 平成 19 年度事業計画ならびに予算案

(1) 学術集会開催の件

第 13 回学術集会

大会長： 川本 愛一郎 理事

開催日： 平成 19 年 3 月 1 日（土）、2 日（日）

会 場： かがしま県民交流センター（鹿児島県鹿児島市）

テーマ： 「地域におけるその人らしい居場所づくりを目指す実践作業療法」

川本：日本作業療法学会（6/22～6/24）にて、チラシを配布予定。500 枚用意している。

特別講演は Dr コトーのモデルとなった、瀬戸上健二郎先生をお呼びするが、二つの条件を提示された。

1 点目が、当日海が荒れたら来られない。

2 点目が、急患が出たら来られない。 とのことであった。

また、当日、瀬戸上先生が来られない場合は、理事で対応して頂きたい。

全体はシンポジウム形式で、「地域とは何だろう」をみんなで考え本音で語れる企画としたい。各 1 時間 45 分で 3 つのセッションを行なう。その上でセッション 4 「総括ミーティング」で何かがみえてくると思う。全体交流はアンケートで「何か聞きたいことはないか」、若い OT が先輩 OT に聞きたいことを募る。特別企画として写真展示を考えており、対象者の了解の下 OT が撮った対象者のいい表情の写真展の開催を考えており、ベストショット賞を作りたいと考えている。演題数は 10 演題を予定している。

<変更点>

セッションの司会、講師、シンポジストの変更が報告された。

承認

古川：写真展について詳しく聞きたい

濱田：テーマは未定、「情動」か「その人らしさ」「居場所」が案としてあがっている。

A4 用紙にて展示、コメントを写真横に記入。

古川：具体的に募集しないと集まらない。コメントする人が意図をどれくらい組めるか。元気に頑張っている人をどうしたらいいか。1 つの冊子として成果物にする為には具体的な企画が必要。基本は、まず自分たちで意図を明らかにし行なうべきでは。意図がずれた物が来る可能性がある。そうすると写真を出してくれている人に失礼にあたる。見ている人にインパクトを与えるような状況を。成果物になってほしいので自費出版に近い形で、テーマを決めて人生観がにじみ出るような物がほしい。写真展示を了解してくれた人の誠意に応えられるよう。公募もいいが、地固めをして公募する。大変だけどやりがいがある。

(2) 調査・研究の件

高木：先ほど述べたとおり、今年度でひとまず終了。

(3) ニュース発行の件

(4) ホームページ見積もりの件

高木：ホームページの管理を太陽社に委託した場合の金額を提示する。ドメインは取得した方が格好いいので、chiiki.com もしくは chiiki.net を考えている。承認を得られれば早々に動きたい。

古川：今回は chiiki.net とする。予算については、広報機関紙関連に 100,000 円を追加し 250,000 と補正する。よって活動準備金が 1,907,477 円とする。

承認

以上の議論がなされ会議を終了した。

（文責：立花・松岡）

日 時：平成 20 年 3 月 1 日（土） 10:00～12:00

場 所：かごしま県民交流センター 4F 小会議室（鹿児島県鹿児島市）

出席者：古川、近藤、陣内、吉田、東、高田、川本、倉富、高木、濱田。（記録：松岡、立花）

【議事】

1) 平成 19 年度事業報告ならびに決算報告

(1) 第 13 回学術集会報告

川本：今回の会場収容は 300 名が限度であり、事前申し込みが 30 名、見込みは会員 200 名、非会員 20 名、学生 60 名である。

また、アイペック・リハシップあい・南州メディカル・酒井医療・カクイックスの 5 社から協賛を頂いた。

ここで、二つほど提案があるが、一つ目は会員数が増加していることもあり印刷代がかかるため、今後は予算の検討をお願いしたい。

二つ目に、参加人数が多く受付が大変なため、会員証の発行をお願いしたい。

古川：支出は妥当だと思う。予算はどうか？

高木：当日入会会員数が多いため、学術誌を多めに印刷するため印刷代がかかる。

古川：今後、通信運搬費もあがるのでは？

高木：メール便を利用し一部 80 円で送付している。

古川：会場費を抑えて、広告、協賛費でまかなうしかない。自助努力が必要となる。

高木：会員証発行の件ですが。

古川：これは継続検討とする。

(2) 調査・研究の件

東：調査研究事業にて、事例集を作った。（ハンドブック）

玄人好みで、一般の方が見てもわからない内容となっている。

事例は在宅への移行期、維持期、片麻痺、小児となっている。

目的としては、研修会等で使い、配布はしない。またホームページにも載せない。事務局で管理し、研修会で使って欲しい。

これで、調査・研究は一区切りをつける。

できれば、OT 協会としても地域事例が必要なため、了解いただくと、OT 協会に提供して欲しい。

古川：OT 協会、厚労省に出すのにはよい。どんどん使ってほしい。

高木：OT 協会に出すのは承認ということでよいか

承認

(3) 研修会共催の件

古川：アイペックの協賛を得て技術伝達を目的に研修を行った。今後 2、3 年は毎年開催予定である

(4) ホームページ立ち上げの件

高木：今年度ホームページを立ち上げた

マークと横に写っている人物はホームページ製作会社が決めたもので、出張願いや参

加申し込み方法をPDFで掲示した

川本：ロゴマークは決定か

高木：まだ決定ではありません

高田：ホームページは正式なものではないのか、日本地域作業療法で検索してもでてこないのだが

高木：以前ご指摘を受けまして検索できるように修正した。現在ではYahoo、グーグル共に検索可能である。

2) 平成20年度事業計画ならびに予算案

(1) 学術集会の件

倉富：第14回学術集会

大会長：倉富 眞 (医療福祉専門学校 緑生館)

開催日：平成21年2月28日(土)、3月1日(日)

会場：サンメッセ鳥栖(予定)

テーマ：「町で生きる人々」

会場は321名入る大ホールで、駅に近くアクセスは良い。今回は認知症に焦点をあてた。認知症は現時点においても緊急性の高い課題である。

特別講演は当事者(認知症)の方に話をしてもらう予定である。

教育講演には池田学先生(熊本大学)を予定している。この特別講演と教育講演は公開講座にする予定。シンポジウムは池田武俊先生、家族会の森氏を予定している。セミナーの2題に関してはOT向けにポイントをあてて連携について現在絞っている段階である。8月までには決定したい。

古川：ボリュームがありますね。会員の勉強になる。認知症は対応の基盤はあるが、具体的にはまだ確立していない。会員が明日の一步を踏み出せるものにしてもらいたい。当事者の話の場合は、会員の中に背景まで知りたい人がいるかもしれないので、時間がかかるため枠を広げてほしい

テレビでは当事者が話すのは見るが、実際に話を聞くのはとても貴重

倉富：教育講演の池田先生の話と合わせてやってもらうようにしたらよいかもしれない。当事者の方には負担をかけないようにしたい

近藤：まちにはグループホーム等も入るのか

倉富：どう地域に帰すか、グループホームの中でOTが運営している人を呼びたい

古川：公開講座はマスメディアを入れるよう努力してほしい

(2) 調査研究の件

(3) ニュース発行の件

高木：今年度はホームページ立ち上げ等もあり、ニュースを発行していない

古川：ホームページがあるので、ニュースは必要ないのでは

3) 平成20年度 研修会・講習会の開催について

古川：アイパックより開催協力の打診があった。2、3年は継続して次回は東先生に任せて行う予定。

東：研修会の日程はH20年7月12日13日で決定。場所は南九州地区で行う予定

承認

4) 会費未納者の取り扱いについて

吉田：意思確認をして支払いなければ退会とするのはどうか
陣内：請求をして支払いなければ退会ということをアナウンスしようと思う
高木：意思確認をするということでお願ひします

承認

5) その他

吉田：次々年度学術集会是長崎での開催を計画している、現在調整中である。
その後は岡山での開催も検討している

承認



平成 20 年度 日本地域作業療法研究会 第 1 回理事会議事録

日 時：平成 20 年 6 月 19 日（日） 19:00～21:00
場 所：雑魚屋思案橋店（長崎県長崎市）
進 行：高木事務局長
参加者：古川・川本・近藤・高田・東・比留間・陣内・吉田・田中。
（事務局：高木・緒方・清藤）

【議 事】

《平成 19 年度事業報告ならびに決算報告》

1) 第 13 回学術集会（鹿児島）報告

川本大会長より報告。参加者会員 88 名、非会員 34 名、学生 75 名。

[学会運営での反省点・意見]

- ・会員証の発行があれば、確認が行いやすいのではないか。
- ・今回の運営委員は 30 名。非会員の者は会員になってもらった。
- ・学術集会参加者にアンケート調査を実施し、結果としては全体的に好評であった。また、写真展を初めての取り組みとして行ったが、これに関しても好評の意見が多かった。

承認

2) 調査研究報告

東理事より報告。平成 17・18 年の調査研究の結果として、平成 19 年度は事例集を作成した。目的は会員に広く普及させることと、今年度研修会で利用することの 2 点。

承認

3) ホームページ作成

高木事務局長より報告。ほぼ完成したが、若干の修正を加える。アクセス数は現在 1741 件で 1 日に 3 件程度アクセスされている。

→見る人の興味をひくキーワードのようなものを入れていくとよいのではないか。

現在、他のホームページとリンクしてないので、できれば作業療法士で起業している人たちとはリンクするなどしたほうが良いのではないか。来年度にリンクができるような状態にするために、今年度は起業者のリストアップを行っていけばよいだろう。（古川代表）

承認

4) 決算報告と監事意見書

高木事務局長より報告。木村監事より、「収支報告は学術集会時点での見込額と年度末の決算額が掲載してあるが、年度開始時の予算も載せておくと分かりやすい。という意見をいただいた。

→通帳の残金、次年度への移行など確実にしておく。また、それらも監事に確認してもらうようにする必要があるのであるだろう。（古川代表）

承認

《平成20年度事業計画ならびに予算案》

1) 第14回学術集会(佐賀)

倉富大会長から事前報告を受け、高木事務局長が報告。平成21年2月28日・3月1日に佐賀県鳥栖市にて“まちで生きる人々”をテーマに開催予定。

→協賛、名義公演等に関して倉富大会長に相談。名義後援ありきではなく、研究大会のテーマに賛同してくれる団体があれば、依頼してもよいのではないだろうか。

承認

2) 調査研究

東理事より報告。調査研究の方向性を決めるべく、まずは案を作成していく。

承認

3) 研修会開催(宮崎)

東理事より報告。平成20年7月12日・13日に宮崎県都城市にて開催予定。6月19日の段階で参加者34名。参加者を40名と考えているが、60名まで受け入れ可能。地域作業療法に関する一連した研修会を開催し、複数回のうちの第1回目の基礎編として考えている。

承認

4) ニュース発行

高木事務局長より報告。今年度は8月に発行予定。

→ニュース発行を全てホームページへ移行してはどうか。(古川代表)

・年会費の振込用紙を送る機会が必要。紙ベースを年2回から1回に減らす、会員証を発行するなどの必要もあるので、検討を行っていく。(高木事務局長)

承認

《その他》

[研究会代表に関して]

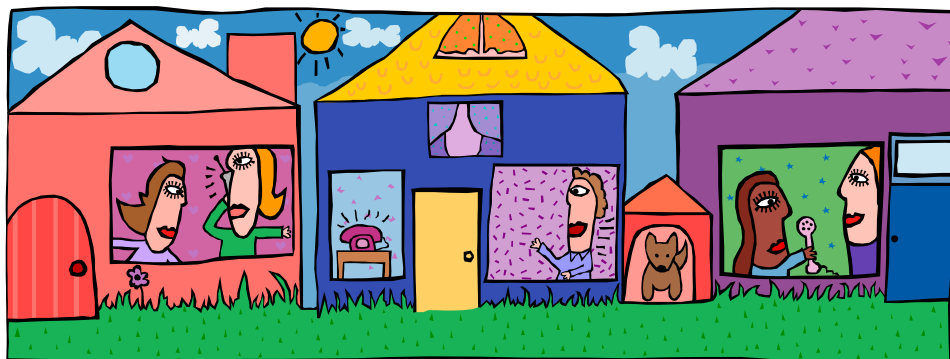
第15回学術集会からは代表を会長に変更。会長は古川代表、副会長は比留間理事、近藤理事。

承認

[第15回学術集会開催に関して]

陣内理事より報告。寺山顧問より時期的にも九州から離れての開催でもよいのではないかと意見をいただいた。次期学術集会は15回目の記念ともなるため、寺山顧問に依頼し東京で行うのも一案。古川代表から寺山顧問へ相談という形をとって、今後検討していく。

承認



【 事務局からのお願い 】

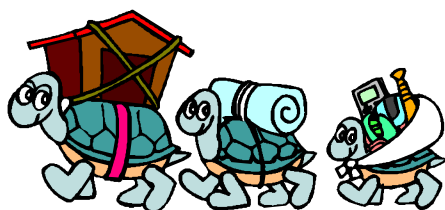
連絡先（所属）に変更があった会員の方は、下記の変更届をコピーして必要事項をご記入の上、事務局（熊本リハビリテーション学院 FAX 096-389-1135）まで、郵送またはFAXにて連絡して下さい。

発行物の郵送やご案内などに支障をきたしますので、ご協力をお願いします。

日本地域作業療法研究会事務局 高木行（熊本リハビリテーション学院 FAX 096-389-1135）

変 更 届

異 動	退 会	氏名変更	その他
会員氏名			
旧連絡先 (所属名称)		新連絡先 (所属名称)	
新郵送先 (所属住所 ・Tel・Fax)	〒		



I've just
moved.